

2012年9月26日

化学工学会 第44回秋季大会（2012年9月19日～21日、東北大学にて）

シンポジウム＜材料・界面部会 晶析技術分科会＞

「固化現象を伴う操作と晶析技術に関するシンポジウム」報告書

オーガナイザー

福井啓介（兵庫県立大学）

前田光治（兵庫県立大学）

本シンポジウムは全て公募によるもので、合計29件の講演発表が行われた。本秋季大会の初日の全日と2日目の午前中に開催された。大学から24件、高専から4件、企業から1件の発表が行われた。殆どが大学からの発表であり、今後企業からの発表が必要と思われる。濾過関係からの発表が2件あり、他分野との連携を進めることが本研究分野の発展に重要と考えられる。発表12分、質疑8分でほとんどの研究発表が行われ、計画通りに順調に開催できた。教室は全行程でほぼ満員の状態で盛況であった。質疑時間が8分であるため、討論が活発に行われ、このシステムは継続すべきと思われる。初日の昼の休憩時間に晶析技術分科会の幹事会（22名参加）を開催し、分科会としての活動報告と今後の予定を審議した。特に、2014年に関西地域において、第2回アジア晶析技術国際会議（ACTS-CGOM 合同）（第1回は2012年5月ソウルにて）を開催することを決定した。

尚、公募内容を以下に記載し記録しておく。

従来の晶析技術に関する研究と晶析を広義的とらえた固化現象を伴う操作を含め、広く公募したい。晶析技術は工業的、学問的にも重要な高度分離技術である。従来の基礎研究、応用研究、薬品分野、工業晶析など様々なアプローチに関する研究成果を公募する。さらに、液体から固体へ、気体から固体への相変化、すなわち固化現象を伴う現象の応用と現象の解明など、晶析現象を広義に捉え、関連する多くの分野からの発表を期待する。晶析技術の将来へ向けた新展開を目指す。なお、活発な討論を期待すべく、本シンポでは「発表12分+討論8分」の時間配分とし、「討論できる方」にご登壇を願う。

以上